



市史通信

第28号

仙台市博物館
市史編さん室



昭和20年代半ば頃に占領軍が作成した
仙台の地図「map of SENDAI」(部分)
(仙台市歴史民俗資料館蔵)



植樹されて間もない、昭和30年代半ば頃の定禅寺通
(仙台市戦災復興記念館蔵)



現在の定禅寺通(ほぼ同じ場所を撮影した)

せんだい **今昔**

占領軍兵士が歩いた木々のみち

仙台市歴史民俗資料館には、昭和20年代半ば頃に占領軍が作成した仙台の地図「map of SENDAI」が所蔵されています。占領軍関係の施設や県庁・市役所などの主要な建造物、映画館などの娯楽施設の位置や名称を英語で表記したガイドマップですが、市内を走る昔ながらの通りの名称が全く違う名前前で示されているのが特徴です。

橋や名勝地の名前こそ元のままでありますが、市街を南北に走る通りはシカゴ、ブルックリン、インディアナポリス、ファーゴ、エルパソ、デンバーといったアメリカの都市の名前がつけられ、東西に走る通りにはさまざまな樹木の名前が冠されています。例えば、大町通はヒッコリー(クルミ)、南町通はメープル(カエデ)、定禅寺通はフィア(モミ)、北一番丁はドッグウッド(ハナミズキ)。米ヶ袋にはスプルーチェ(トウヒ)、パイン(マツ)、オークが、北六番丁のアッシュ(トネリコ)、北四番丁のパーチ(カバ)、北二番丁のチェリー(サクラ)、長丁丁のエルム(ニレ)と、実に様々な樹木が生い茂っているかのような表記は、まさに「杜の都仙台」を見ているようです。

しかし、昭和20年(1945)7月の空襲によって廃墟と化した仙

台市中心部は、この時期にいたっても戦災からの復興途中であり、焼け残った市役所や県庁などの他に大きな建物も数少なく、人々の頭上には空が広がっていました。戦前には「杜の都」とうたわれた、並木と屋敷林に恵まれた街の復興を求めて、昭和23年に駅前にシダレヤナギ、西公園前にポプラが植えられましたが、失敗したり、様々な事情で植替えられたりと試行錯誤が続きました。昭和24年度から仙台駅川内線(現在の青葉通)で街路樹植栽を見据えた工事が始まり、翌年から東二番丁線や元寺小路線(広瀬通)、細横丁線(晩翠通)、定禅寺通線などの道路整備が進められ、同時に街路樹も増えていきました。昭和25年、青葉通でケヤキ50本の植え初め式が挙行政され、これがのちに西公園にまで伸びる仙台を代表する街路樹となりました。同様に、広瀬通や愛宕上杉通にはイチョウ、北二番丁にはシラカシやエンジュなどの並木が整備されていったのです。

「map of SENDAI」に記された通りの名前は、仙台市民の間で定着するものではありませんでした。かつて占領軍の兵士たちが通った、土ぼこりの立ちのぼる名のみ木々の路は、木の種類こそ違えいまや現実の並木道となり、私たちを四季折々に楽しませてくれます。かつて植えられた若木が逞しく成長したと同時に、仙台の街も瓦礫からの復興を果たしていったのです。

せんだい地域誌さんぽ その1



1 広瀬橋交差点に残る、ふしぎな路側帯

太白区長町一丁目の広瀬橋のたもとにこぢんまりと立つ、橋姫明神社。その南側の横断歩道の先に、幅広の路側帯があります。

広瀬川に初めて、奥州街道の橋として永(長)町橋が架けられたのは、寛文年間(1661~73)と言われています。位置は現在の広瀬橋よりやや西側で、その南にはUの形で街道が西へ一度曲がってから橋へと続いていました。

この永町橋が明治42年(1909)、約1年半の工期をかけて日本初の鉄筋コンクリート製橋に架け替えられ、広瀬橋となります。かつての橋とは位置も変わり、またそれともない奥州街道(国道4号)も直線となって、曲がった道の先は行き止まりとなってしまいました。

これらの道路改修によって、交差点にはもはや昔の面影がほとんど残っていません。ですが、いまも残る幅広の路側帯こそが、藩政時代の街道の一部なのです。



「仙台領奥州街道絵図」に描かれた長町橋
長町側(左)の街道が橋の手前で曲がって広がっているのがわかる。江戸時代中期(仙台市博物館蔵)



2 車道と緑地がつながる、土樋の側道

愛宕上杉通と土樋通との交差点の西側に、南西へ向かって斜めに伸びる側道があります。側道は30mほど進んで土樋通に遮られますが、そのビルの狭間には、広瀬川へと向かう細長い「土樋緑地」があります。

明治26年の「仙台市測量全図」を見ると、現在の荒町交差点付近から広瀬川に向かう水路が確認できます。そしてその形と、現在の側道とそれに続く緑地がちょうど一致するのです。

四ツ谷堰用水の支流や清水小路の湧水が集合して、広瀬川に流れこんだものと思われるこの水路は、明治32年から始まった仙台市の近代的な下水道事業によって、清水小路幹線として整備され、下水を広瀬川に吐水することになりました。その後、仙台市電長町線敷設に伴う道路工事などにより、今のような暗渠化が進んだのです。昭和23年(1948)の地図では、広瀬川岸まですべて暗渠になったことが認められます。

この側道と土樋緑地の地下にある下水管と雨水吐き口はまだ現役で、現在も大雨の際に機能しています。



「仙台市測量全図」に描かれた水路 明治26年(仙台市博物館蔵)



土樋緑地の突き当たりは広瀬川下には、暗渠水路の吐水口がある

～ちょっと気になるスポット編～

ここは、どうしてこうなっているのだろう——？
そう思いつつも、日々なにげなく通り過ぎていたあの道、あの場所。
ちょっと立ち止まって、その成り立ちを振り返ってみました。



3 なぜか広い、瀬橋下の丁字路交差点



宮城県美術館側から広瀬川に架かる瀬橋を渡ると、半月形の小さな公園を回り込んで、左に分かれる市道があります。交通量もさほど多くはないと思われる、堤防までの短い下り道ですが、その先にある角五郎丁通との丁字路交差点の道幅は、不自然に広がっています。

実はかつて、ここから旧瀬橋が対岸へ伸びていました。つまり、もとは十字路だったのです。明治22年の洪水によって広瀬川に架かる主要な橋が流されたのをきっかけに、第二師団司令部をはじめとする川内の軍関係施設と市街地とを結ぶ、強固な橋を築造することになり、それまで木造だった瀬橋も明治25年、下流の大橋と共に鉄橋に架け替えられました。明治26年の「仙台市測量全図」を見ると、交差点部分が現在と同様に幅広になっているのが認められます。

瀬橋はその後、昭和36年にやや東寄りに架け替えが行われ現在の橋となり、やがて鉄橋は姿を消しました。それにあわせて、もとの交差点は十字路から丁字路へと様変わりました。

旧瀬橋の名残である幅広の丁字路から堤防側を覗くと、いまも古い橋脚の一部を見ることができます。



昭和36年竣工の新瀬橋(左)と明治25年竣工の旧瀬橋(右) 昭和37年(小野幹撮影)



4 どこにも行けない、涌沢のトンネル

秋保石を積んだ坑口のアーチが印象的な、古いトンネルがあります。場所は、太白区茂庭台団地の東側、県道31号(仙台村田線)から、東に少し入った辺りです。

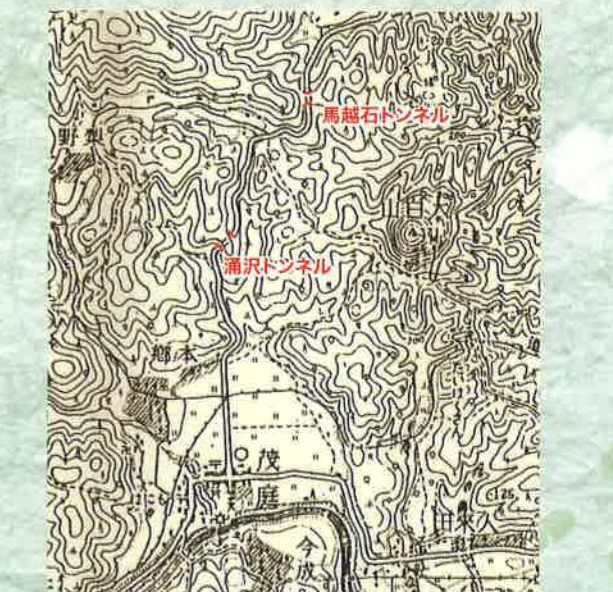
茂庭から折立に通じるルートは、古くは梨野から立石峠を越えて松倉に下っていました。それを明治25年、当時の生出村村長長尾四郎右衛門による村内道路網整備事業のひとつとして、立石峠の東に馬越石トンネルが開削され、折立方面への新ルートができたのです。

馬越石トンネルは、数回の拡張工事を経て現在に至っていますが、この新ルートには実は、もうひとつのトンネルが



ありました。昭和3年の国土地理院発行の地図には確かに二つのトンネル記号が表示されています。北側が馬越石トンネル、そして南側が「涌沢トンネル」です。しかし、このトンネルは、昭和40年代の道路改良工事でトンネルの西側に切通しの道路が作られたため、出口側が法面で塞がれてしまいました。

現在は写真のように、その入口だけを残しています。



二つのトンネル(加筆部分)が記された地図 昭和3年(国土地理院)

特別編6 民俗

B5判 オールカラー 610頁
6,000円 (本体5,715円)



七夕と盆のあいだ

中国伝来の天の川伝説や乞巧奠がもととなった、七夕行事——。

現在の仙台七夕まつりは、華やかな七夕飾りで商店街が彩られ、毎年8月6日から8日まで、多くの観光客でにぎわっています。ですが、仙台の昔の暮らしを振り返ると、七夕が盆へ繋がる行事だったことが見えてきます。

七夕も盆も、そもそもは旧暦7月の行事です。かつての仙台では7月6日の午後に、折鶴、巾着、短冊、吹流し、紙衣、くすかご、七夕線香を吊るした七夕の竹飾りが、現在の七夕行事でも見られるように、庭や門口に立ちました。若林区笹屋敷では、丈夫な成長を願って子供の浴衣を吊るすこともあったそうです。

農家では、この七夕飾りの下に季節の野菜や果物を供え、家族で精進料理を食べます。また、麦わらなどで作った七夕馬を屋根に載せるという行事もありました。この馬に乗って、祖先の霊や田の神がやって来ると言い伝えられており、祖先の霊を供養する盆との関連が色濃く出ています。

それを示すように、7日は七夕の節句日であると同時に「ナノカビ」とも呼ばれ、墓掃除など、盆の準備を始める日でした。農村では、盆花や盆箸、盆ござ、蓮の葉など、盆棚に供えるものを

田畑や山、沼から採って準備します。また、これらをひとまとめにした「お棚物」を町場へ行商することもありました。町場では主に、このような行商からお棚物を買ひ、盆棚に供えます。



七夕馬

盆棚は13日の朝に整えます。組立式のものや、伏せた味噌桶に餅の伸び板を載せるもの、また、仏壇から位牌を移さず盆ござを敷いたものなどがありました。そして13日から30日までの間、家の門口には、杉の枝葉を結わえた柱に白い提灯を揚げた灯籠柱が立てられます。盆火も盛んに焚かれ、戦前の東一番丁では、通りに面した商店が、薪を何重にも井桁に重ねたものに火をつけていました。こうして、灯籠の灯りや盆火を頼りに七夕馬に乗って帰ってくる霊を迎えたのです。

『仙台市史 特別編6 民俗』で、守り伝えられてきた「日常」を見つめなおしてみませんか。



味噌桶に餅の伸び板を載せた盆棚 (泉区福岡 平成8年)



初盆や年忌に立てる灯籠柱 (若林区荒浜 平成8年)

目次

- I 章 暮らしの背景
 - 一 自然環境と民俗
- II 章 人びとのつながり
 - 一 二町の構成
 - 二 社会と家のしくみ
- III 章 都市と村落の交流
 - 一 都市のなりわい
 - 二 都市仙台における商業
- IV 章 村のなりわい
 - 一 田や畑の仕事
 - 二 山の仕事
 - 三 海や川・沼の漁
- V 章 暮らしのかたち
 - 一 衣の生活
 - 二 食の生活
 - 三 生活の場としての住まい
- VI 章 暮らしのリズム
 - 一 人生の通過儀礼
 - 二 仙台の祭り
 - 三 仙台の年中行事
- VII 章 祈りのかたち
 - 一 村の信仰伝承
 - 二 旧城下の祭り
- VIII 章 舞い踊る人びと
 - 一 仙台の民俗芸能の現状
 - 二 仙台神楽の系譜と特色
 - 三 正月予祝と田植踊
 - 四 盆の鹿踊と剣舞
 - 五 仙台の風流芸
- IX 章 語りつづける暮らし
 - 一 昔話
 - 二 伝説
- ◎付録 CD
 - 一 音でたずねる仙台の民俗
 - 二 方言
 - 三 民謡
 - 四 昔話
 - 五 民俗芸能

馬場の田植踊／上谷刈
の鹿踊／川前の剣舞／
柳流青麻神楽

仙台の歴史を掘り下げる 「仙台市史」好評発売中!

◎次回刊行予定
通史編9 現代2
◎続刊予定
特別編/地域誌、年表・索引

通史編/3,000円(本体2,858円)
資料編/4,000円(本体3,810円)
特別編/6,000円(本体5,714円)
※板紙のみ5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

- 通史編** 1原始 ※改訂版とセット販売になります 2古代中世 3近世1 4近世2 5近世3 6近代1 7近代2 8現代1
- 特別編** 1自然 2考古資料 ※発売しました 3美術工芸 4市民生活 5板碑 6民俗 7城館 8慶長遣欧使節
- 資料編** 1古代中世 2近世1藩政 3近世2城下町 4近世3村落 5近代現代1交通建設 6近代現代2産業経済 7近代現代3社会生活 8近代現代4政治・行政・財政 9仙台藩の文学芸能 10伊達政宗文書1 ※発売しました 11伊達政宗文書2 12伊達政宗文書3 13伊達政宗文書4



県内主要書店、仙台市博物館でお求めになれます。配送をご希望の方は、電話・FAXで(株)宮城県教科書供給所へお申込みください。

発売元/ (株)宮城県教科書供給所
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL 022-235-7181 FAX 022-235-7183
お問合せ先/ 仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26
TEL 022-225-3074

お知らせ

『通史編1 原始 旧石器時代』(改訂版)の刊行について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて改訂版を刊行しました。ご購入いただいた元版を博物館の「市史改訂版」係まで送料着払いでお送りいただくか、博物館まで直接お持ち下さい。お届けいただいた元版に改訂版を添えてお返しいたします。詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

『特別編2 考古資料』正誤表シールの配布について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて、『考古資料』のねつ造部分について修正内容を示した正誤表シールを作成しました。『考古資料』ご購入いただいた方に配布しておりますので、詳しくは市史編さん室までお尋ねください。